

ストを行った後、表面処理はRocatec R-Plus処理、Rocatec R-Plus+シランカップリング処理、イトロ処理、イトロ処理+シランカップリング処理の4種類の表面処理を行った試料に、ポーセレンライナーM、クリアフィルフォトボンド、モノボンドプラス、セラミックプライマー、ユニバーサルプライマーの5種の各プライマー処理を行い、グラディアRを築盛し剪断接着試験を行った。得られた結果をKruskal Wallis H-test後に、Mann Whitney U-test with Bonferroni correction ($P<0.05$)にて多重比較検定を行った。

【結果と考察】ロカテック処理法とイトロ処理法を比較した場合、ポーセレンライナーM、クリアフィルフォトボンドでは有意差は認められなかった。モノボンドプラスの場合、ロカテック処理ではイトロ処理法と比べ有意に高い値(25.48MPa)を示した。セラミックプライマーの場合、ロカテック処理と比べイトロ処理法の方が有意に高い値(27.31MPa)を示した。ユニバーサルプライマーの場合、イトロ処理単体ではロカテック処理と比べ有意に低い値(8.54MPa)を示したが、イトロ処理とシランカップリング処理を併用した場合、ロカテック処理と比べ有意に高い値(30.03 MPa)を示した。この結果よりジルコニアとハイブリッドセラミックスの併用にはロカテック処理ではシランカップリング処理+モノボンドの併用が、イトロ処理ではシランカップリング処理+ユニバーサルプライマーの併用が有効と考えられる。

7) 診療録整備委員会の業務

○清野 晃孝, 杉田 俊博, 佐藤 穂子
濱田 智弘, 原田 卓哉, 高橋 和裕
(奥羽大・歯・附属病院)

【目的】本院では、適切なレセプトの作成を目的に診療録整備委員会を設け、診療録の点検、レセプトの内容検査、審査支払機関からの審査理由への対応、保険医に対する研修会の開催等の作業を毎月実施しているが、審査支払機関から査定が試されてきている。

そこで、医療環境向上のために査定内容を精査し、診療内容向上と診療録の適切な記載に結びつ

けることを目的にこの調査を行った。

【材料と方法】対象は、平成20年度から23年度までの4年間の本院医事課で管理・保管されている審査支払機関からの増減点連絡書、再審査等請求書および再審査結果連絡書であり、月別査定率(%), 査定項目およびその月別件数(個)を調査項目とした。

【結果】平成20年度から23年度の4年間の査定率の平均値は0.92%であった。査定項目は処置に関するもの(76件)、文書に関するもの(203件)であった。

【考察】福島県の平均値と比較して本院が高く、改善すべき課題であると認識できた。高査定率の要因は、保険医の保険診療ルールに対する理解不足と思われる、毎年新人保険医が参入することへの対応の不十分さが主因と考えられた。さらに保険医が診療録記載の理解不足および職員と保険医の意思疎通が図られていないことが影響していると推察できた。

そこで、これらの問題解決の一つの手段として体系的に統一された書式による診療録記載が必要と考え、客観的に医療行為を可視化するため、科学的な記録として診療録を作成できるPOS(problem oriented system)に基づいたPOMR(Problem Oriented Medical Record)を用いた教育を保険医へ実施する必要性を認識した。

8) 臨床研修歯科医師の進路

ー過去7年間の結果からー

○高橋 和裕, 杉田 俊博, 清野 晃孝, 佐藤 穂子
鈴木 史彦, 金 秀樹, 山森 徹雄, 鎌田 政善
(奥羽大・歯・附属病院・歯科医師臨床研修プログラム委員会)

【目的】歯科医師臨床研修制度の法制化後、本学プログラム委員会は、臨床研修後における就職指導も実施している。臨床研修歯科医の就職への意識を把握し、今後の指導に役立てるために平成18年度から24年度までの7年間の就職実態を経年的に調査した。

【調査方法】各年度の臨床研修開始時と修了時に、プログラム委員会で実施したアンケートや調査票から、研修年度、年齢および就職先を抽出したデータカードを作成した。対象年齢は24歳から30歳